

中村町小学校	学びの基盤づくり推進校
--------	-------------

1 研究の重点と具体的な取組

重点1：ねらいに迫る対話を生むための工夫

- ・単元のねらい、本時のねらいを明確にし、児童自身が見通しを持って、単元のゴールに向かって主体的に学べるように単元構成や課題を工夫した。
- ・思考の深まりが目で見て分かるように、全文シートやホワイトボードなどの“ツール”を使って対話を促した。
- ・ペアやグループにおける対話、学級全体における対話など学習形態を工夫した。
- ・児童の思考を促す問い返しの発問をした。

重点2：わかった！できた！を実感させる手立て

- ・キーワードや大事な言葉を示し、自分でまとめを書くようにした。
- ・「よろこびポイント」を活用して書く視点を明確にし、ねらいや目的に合った変容をふり返りとして書かせたり、ペアやグループで伝え合ったりした。
- ・終末に、学習した内容を活用する場を設定した。

2 取組の検証

		教員・児童の意識調査項目	前期	後期
重点1	教員	対話を意図的に設定することができた	79%	80%
	児童	友達と話し合って、自分の考えが変わったり新たに付け加わったりしている	78%	82%
重点2	教員	自己の変容が実感できる手立てを行った	79%	82%
	児童	授業を通して「わかった・できた」等満足感・達成感がある	82%	87%

3 成果と課題

重点1：ねらいに迫る対話を生むための工夫

○教員の意識調査を定期的に行ったことで、教師の重点に対する意識が高まった。毎週自身の授業を本校の重点に焦点を絞ってふり返ったこともよかった。教師が意図的に対話を設定することで、児童の対話に対する意識も高まった。児童は、対話することに対して抵抗がなく、必要に応じて進んで対話を行う姿も見られるようになってきた。

○学習のねらい・内容に応じて学習形態の工夫を行ったことも効果的だった。対話しやすい人数についても学ぶことができた。適切な人数設定を行うことで、児童の対話も活発になり、学びが深まる様子が見られた。

▲授業で活用する“ツール”については、積極的に活用し、吟味することが必要である。

重点2：わかった！できた！を実感させる手立て

○学習の積み重ねが視覚的に捉えられるワークシートを活用したことで、児童が変容を自覚しやすくなった。

○適用問題を確実に設定することで、学習を生かして解決することができ、それが「わかった！できた！」の実感につながった。

▲児童の考えを受け止め、板書に位置づけることが不十分などところがある。児童の思考の流れに沿い、まとめの手がかりとなるような板書の工夫を継続していきたい。

